

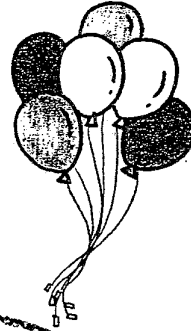
Q2

家庭訪問をしても子供が会ってくれません。これからどのようにかかわっていったらよいでしょうか。

A 家庭訪問での対応

《基本的理解1》

- このような状態のときは、無理に会おうとすると逆効果になることもあります。
- この場合の対応のポイントは、母親を通して気持ちを伝えるなど、間接的なかわり方を心掛けます。
- 時には「簡単なメモ」や「手紙」を準備しておき、子供の状態がよいときに家族から渡してもらうことも効果的です。



《子供への言葉掛けの例》

(玄関先から、子供に聞こえるような声で)

- ・「ちょっと寄って見たけど、元気にしてる？」
- ・「手紙置いておくから、よかったら後で見てね。」
- ・「また来るね。」



《基本的理解2》

- 教師が家庭訪問をすること自体も拒否しているようなときは、しばらく家庭訪問は控え、様子を見ます。
- こうしたときこそ、保護者との連絡は欠かさず、密に行うようにします。
- 子供に会えなくても家庭訪問を通して、不安な親を支え続け、勇気付けていきます。

《保護者への言葉掛けの例》

- ・「子供さんの様子はどうですか。お母さんも色々とお苦勞がおりかと思いますが、何か気になられることなどありましたら、いつでも御相談ください。」
- ・「子供さんは、今、どんな過ごし方をしているのでしょうか。」
- ・「少し、以前よりも落ち着いてきた様子ですね。」
- ・「もう少ししたら、子供さんの動きが見られるかもしれませんね。」
- ・「では、今度は1週間後に参ります。その間に何かありましたら、いつでもお電話ください。伺いますので。」